

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上市	学 校 名	郡上市立大和第一北小学校			
校 長 名	桐谷 一夫	対象学年	3・5年・全校	人 数	3年（5名）、5年（9名）	
活 動 名	ホタルの学校（3年） 田んぼの学校（5年）		時間数	3年生 35時間 5年生 30時間	継続年数	3年生（9年） 5年生（9年）
題 材	①自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 ⑥ その他（ ）		[ホタルの学校] [] [] [田んぼの学校 手作業・無農薬での米作り] [地域の方に恩返し 高齢者に花のプレゼント] []			
複数年継続するための工夫改善	・活動の記録を確実に残し、前年度の実践から次年度へ改善点を明らかにする。また年度当初の段階で一年を見通すことができるようにしておき、計画的に活動を進められるようにする。 ・当該学年が年度末に活動の引継式を次年度の学年に対して行い、活動への憧れや見通しを抱かせる。また、地域講師を毎年お願いすることで、地域に支えられた体験活動を十分に味わわせる。					
<h3>1 ねらい</h3> <p>◎地域住民が守り育てている万場のホタルの飼育活動を通して、これまで万場の自然を守り育ててみえる地域の方々の思いや、命の大切さに気付き、地域の一員として、美しい自然を保護するために、自分ができることを実践することができる。</p> <p>◎学校田で地域の方に教えてもらいながら米作りを行う活動を通して、農作業の大変さや、命を支える食物の大切さを実感し、お世話になった地域にできることを考え実践することで、郷土への愛着、思いやりの心を育むことができる。</p>						
<h3>2 活動の概要</h3> <p>[第3学年 ホタルの学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師の指導のもと、ホタルの飼育の活動を開始する。幼虫の餌となるカワニナを公園内で採取し、当番を決めて、毎日、観察や飼育活動に取り組む。 6月中旬には、全校児童による「ほたる観察会」を行う。この行事では、地域住民も招き、ホタルの学習で学んだことや、これからもホタルが住み続けられる美しい万場の自然を守るためにできることを3年生が中心となって発表。個体数を計測し、経年変化を調べる。6月下旬には「ホタル捕獲会」を行い、捕獲したホタルを交尾、その後、産卵、孵化をさせ、次年度への生育、万場のホタルの保護活動につなげる。また、ホタルが生息する学校周辺を流れる寺川の水質調査を行い、水の美しさを維持するために普段の生活で心がけるとよいことを考え実践する。また、11月に行われた学習発表会では、地域住民も招待し、これまでの学習成果を、地域に向けて発信する。 <p>[第5学年 田んぼの学校 手作業・無農薬での米作り 高齢者に花のプレゼント]</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の祖父母に外部講師をお願いし、JAの協力も得ながら、無農薬での米作りを行う。地域住民も招いた学習発表会で学習の成果を発表。米を販売した収益金で、地域への貢献活動を行った。 						
<h3>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</h3> <ul style="list-style-type: none"> 3年生では、学校に隣接する「ほたるの里公園」整備事業を中心となって進めた地域住民、小保田捨義さんに、平成17年から継続して毎年教えていただいている。 5年生の米作りの活動では、JAに種苗をいただき、児童の祖父母に呼びかけ、外部講師として「田起こし」「代かき」「田植え」「草取り」「稲刈」「脱穀」の活動を教えて頂きながら行う。昔ながらの手作業を中心に進め、農作業の大変さや、命を支える食物を育てる農業の大切さについて実感する。11月の学習発表会では、学習の成果を発表する。また、自分達で地域に貢献できることはないかを考え、収穫した米を販売した収益金でシクラメンを購入し、民生児童員の方の協力を得て、地域の高齢者宅を「新年を元気に迎えてください」と、心を通わせたプレゼントをしながら、年末に訪問をする。 						
<h3>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</h3> <ul style="list-style-type: none"> ホタルの餌となるカワニナは、美しい水でしか生息できない、自然界には様々な天敵がいて、幼虫100匹のうち成虫になれるのはわずかに3匹だけであるなど、ホタルが飛び交う万場の風景の陰には、美しい環境を維持するための万場の人々の思いや行動があったのものであることを実感する。そして「万場のホタルがずっと元気でいられるために、自分には何ができるだろうか」と自ら課題をもち、生活において実践できることを考え全校や地域に投げかけた。 体験を通して、普段当たり前に食べていた米が、どんなに多くの作業を経てできるのか、日本の農業の未来、脱穀や精米による変化から、玄米と白米との栄養の違い等、米作りの学習が、他教科の学びにまで横断的に発展し、課題をもって意欲的に学ぶ姿がみられた。 						

